

## 国宝高松塚古墳壁画修理作業室の専門家公開（第3回）における主な意見

国宝高松塚古墳壁画修理作業室の専門家公開（第3回）を実施したので、以下にその概要をまとめる。

### ○実施日

平成27年6月7日

### ○対象団体

考古学分野（考古学研究会，日本考古学協会，古代学研究会）

日本史学分野（大阪歴史学会，史学会，日本史研究会，日本歴史学会，歴史学研究会）

美術史学分野（美術史学会）

保存修復分野（日本文化財科学会，文化財保存修復学会）

\*考古学分野6名，日本史学分野5名，美術史学分野5名，保存修復分野4名を対象として，1時間の資料実見（高松塚古墳壁画，キトラ古墳壁画）の後，別室で担当者らとの意見交換等を行った。

### ○主な感想・意見

- ・高松塚古墳壁画は時間をかけて漆喰を綺麗にしていると感じた。どこまで修理を行うのか，修理終了に向けた具体の方針に関しては再検討が必要という印象をもった。[考古学]
- ・キトラ古墳壁画は思った以上に保存状態が良い。高松塚古墳壁画とキトラ古墳壁画の両者の保存状況に大差があることは一般的には理解されていない。両者は別々の方法で安定化をすべきである。両者を一緒に展示すると，高松塚に関しては一般に不安感を与えかねない。[考古学]
- ・高松塚古墳壁画を初めて見学した。丁寧な修理が行われていることが理解できた。修理の過程で多数の知見が得られているようであるが，情報発信をしてほしい。[考古学]
- ・高松塚古墳壁画とキトラ古墳壁画は，極めて貴重な文化財であり，それらにかかる情報発信は海外にも行うことを検討すべきである。[考古学・保存修復]
- ・高松塚古墳壁画への植物の根の悪影響が大きいと感じた。現状は水と切り離されたので

今後は大きな悪影響はないと思われるが、さらにさまざまな実験が必要かと思う。[保存修復]

- 長期的な見地で後世に繋いでいくことが重要であり、古墳壁画室を維持することが大事である。また、一般の文化財保護に関する意識を高めるためにも、公開等のイベントは継続することが重要であると感じている。[考古学]
- 本事業においては、様々な情報が発信されているが、修理の経緯についてもより積極的に発信して欲しい。[保存修復]
- 今回、キトラ古墳壁画の保存状態が良いこと、保存についての努力に感心し、感銘を受けた。出土直後の状態を保つことは不可能だが、十分な保存措置を講じた上で、できる限りの一般公開をする方向で考えてほしい。[美術史学]
- 一般公開を予定しているとのことだが、一般公開によって壁画の劣化の進行が進む懸念はないのか？一般公開しなければならない、という観念が強くなりすぎないように慎重に検討していただきたい。[日本史学]
- 現状は墳丘に戻すことは難しいとのことだが、技術的な検討は続けてほしい。[日本史学]
- 写真で変化が理解できた。処置過程で大量の写真撮影が行われたと思うが、今後の報告書や情報公開等で多くの写真情報を公開してもらえると学術的に有益である。[日本史学]
- 高松塚古墳壁画は想像以上に繊細であり、技法的にも特徴が認められる。中国の技法と異なる技法も認められる。これらの点にも配慮して修理を進めて欲しい。[美術史学]
- 研究者、特に若手の研究者に実見の機会を作って欲しい。[美術史学]